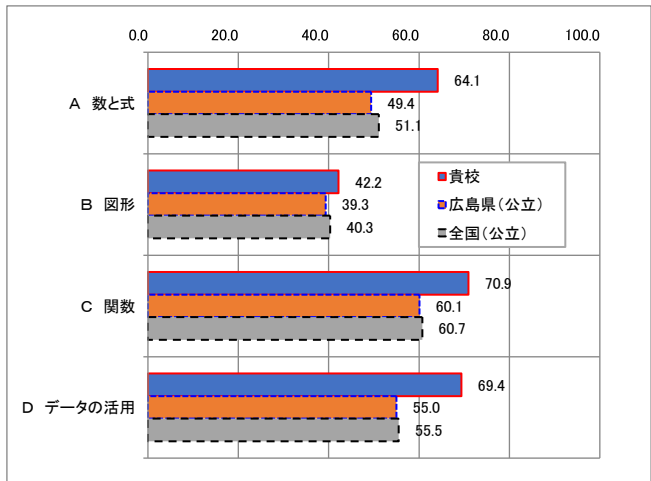
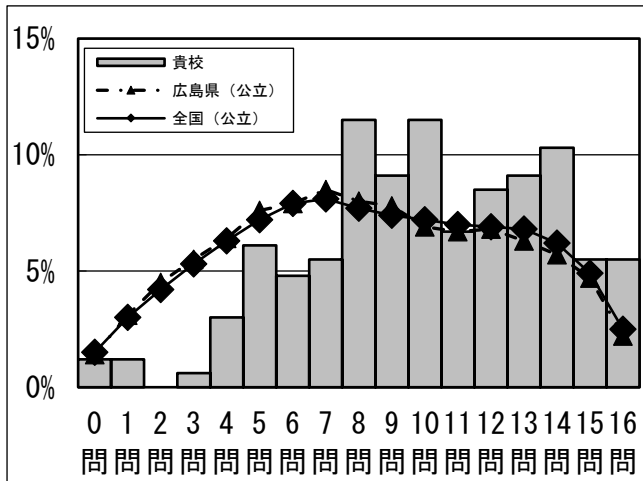


令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

平均正答率	廿日市中	広島県平均	全国平均
	63%	52%	52.5%

数学

数学については、平均正答率が63%で、県平均、全国平均よりも約11ポイント上回っている。学習指導要領の内容についても、全ての内容において、県平均、全国平均を上回っている。



【正答率上位2問】

□正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める。【設問6(1)】

96.4% (国 90.2%、県 90.4%)

□ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ。【設問8(1)】 93.3%

(国 83.4%、県 83.6%)

【正答率下位2問】

■18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。【設問8(2)】 25.5%

(国 17.1%、県 17.4%)

■点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくる時、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ。【設問9(2)】

25.5% (国 25.7%、県 25.7%)

【重点課題】

○説明の手段に式やグラフを使うことは理解できているが、思考の過程を的確に表現したり、考えたことを数学的な表現を用いて説明したりすることに課題がある。

○「2つの三角形が合同である」という事象を、角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すことに課題がある。

【授業改善】

○事象の中にある関数関係を見だし考察する場面において、問題解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げて、解決の見通しを共有した場面などを振り返りながら、表現を補い、十分な説明ができるようにする。

○与えられた命題を根拠に新たな関係や性質を見出す活動を取り入れ、それが説明できるようにする。

■【設問8(2)】25.5%(広島県17.4%)

8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てるようになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

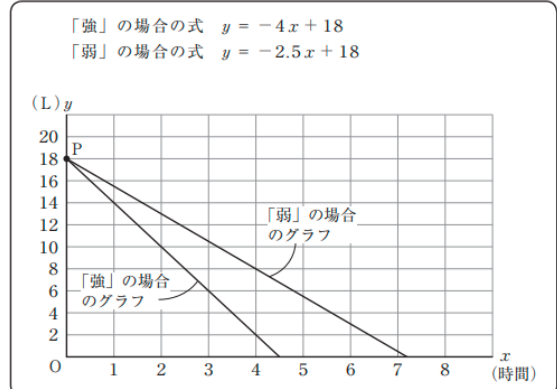
説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

<問題の概要>

18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。

<出題の趣旨>

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

<学習指導要領における内容>

[第2学年] C 関数

(1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

<解答類型>

(正答の条件) アを選択し、次の(a)、(b)について記述しているもの、又は、イを選択し、次の(c)、(d)又は(c)、(e)について記述しているもの。 (a) 「強」の場合の式と「弱」の場合の式に $y = 0$ を代入すること。 (b) 上記(a)に対応する x の値の差を求めること。 (c) 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフの y 座標が0である点に着目すること。 (d) 上記(c)に対応する x の値の差を求めること。 (e) 上記(c)に対応する2点間の距離を読み取ること。			
(正答例) <アを選択した場合> ・「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。(解答類型1) <イを選択した場合> ・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求める。(解答類型10) ・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y 座標が0のときの2点間の距離を読み取る。(解答類型13)			
類型	正誤	解答の内容	反応率
1	◎正答	(a)、(b)について記述しているもの。	12.1
2	○準正答	(a)についての記述が十分でなく、(b)について記述しているもの。 (正答例) ・2つの式に0を代入して x の値の差を求める。 ・0を代入して x の値の差を求める。	0.0
3	○準正答	(b)についての記述が十分でなく、(a)について記述しているもの。 (正答例) ・2つの式に $y = 0$ を代入してそれらの式から使用時間の差を求める。 ・2つの式に $y = 0$ を代入してそれらの式から x の値を求める。	4.2
4	◎正答	(a)についての記述が十分でなく、(b)についての記述が十分でないもの。	0.6
5	誤答	(a)のみを記述しているもの。(a)についての記述が十分でないものを含む。	2.4
6	誤答	(b)のみを記述しているもの。(b)についての記述が十分でないものを含む。	7.9
7	誤答	式を用いることについて記述しているが、(a)、(b)について記述していないもの。	4.8
8	誤答	上記以外の解答	21.2
9	誤答	無解答	3.0
10	◎正答	(c)、(d)について記述しているもの。	5.9
11	○準正答	(c)についての記述が十分でなく、(d)について記述しているもの。 (正答例) ・2つのグラフが0Lのときの x の値の差を求める。 ・0Lのときの x の値の差を求める。	0.0
12	○準正答	(d)についての記述が十分でなく、(c)について記述しているもの。 (正答例) ・2つのグラフの y の値が0のとき、使用時間の差を求める。 ・2つのグラフの y の値が0のときの x の値を読み取る。	3.6
13	◎正答	(c)、(e)について記述しているもの。	0.0
14	○準正答	(c)についての記述が十分でなく、(e)について記述しているもの。 (正答例) ・2つのグラフが0 L のときの2点間の距離を読み取る。	0.0
15	○準正答	(e)についての記述が十分でなく、(c)について記述しているもの。 (正答例) ・2つのグラフの y 座標が0のときの距離を読み取る。	0.0
16	誤答	(c)についての記述が十分でなく、(d)についての記述が十分でないもの。	1.2
17	誤答	(c)についての記述が十分でなく、(e)についての記述が十分でないもの。	0.0
18	誤答	(c)のみを記述しているもの。(c)についての記述が十分でないものを含む。	0.6
19	誤答	(d)のみを記述しているもの。(d)についての記述が十分でないものを含む。	4.8
20	誤答	(e)のみを記述しているもの。(e)についての記述が十分でないものを含む。	0.6
21	誤答	グラフを用いることについて記述しているが、(c)、(d)、(e)について記述していないもの。	11.5
22	誤答	上記以外の解答	4.8
23	誤答	無解答	7.3
24	誤答	上記以外の解答	0.6
25	無解答		3.0

- ◆ 正答の中で最も正答率が高かった【解答類型1】の生徒は、「用い方」として、二つの式に「 $y = 0$ を代入する」と、それに対応する「 x の値の差を求める」ことを明示して記述することができていますが、全体として正答率の合計が 25.5%であることから、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があるといえます。
- ◆ 最も誤答の多かった【解答類型8】の生徒は、例えば、「 $y = -4x + 18$ と $y = -2.5x + 18$ の差を求めればよい。」「『強』の場合の式と『弱』の場合の式で連立方程式を解き、出てきた x の値がストーブの使用時間の差となる。」など、「差」について記述していますが、「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の差を求める方法について、誤って捉えていると考えられます。
- ◆ 次に誤答の多かった【解答類型21】の生徒は、例えば、「グラフを見て比べると、『強』では4時間半くらいで灯油がなくなり、『弱』では7時間くらいで灯油がなくなる。よって、『弱』の方が長く使える。」「グラフを見ると、灯油を使い切るのに『強』よりも『弱』の方が1.5倍くらいの時間がかかる。」など、ストーブの使用時間と灯油の残量のグラフから、灯油を使い切るまでのおよその使用時間について読み取っていますが、「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いが、およそ何時間になるかを求める方法を数学的に表現できなかったと考えられます。
- ◆ 様々な問題を、数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れ、数学を活用する方法を説明できるよう学習指導を工夫します。
- ◆ 数学を用いた解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げ、問題解決の見通しを共有した場面や問題解決の過程を共有した場面を振り返りながら、十分な説明にしていく場面を設定するなど学習指導を工夫します。

<内容の系統性>

【小学校 算数】

C 測定			C 変化と関係		
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
(2) 時刻に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けること。	(2) 時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かすこと。	(2) 時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かすこと。	(2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。	(3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。	(2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

【中学校 数学】

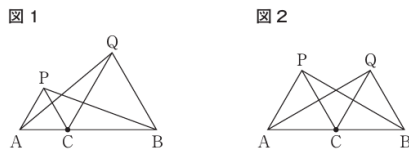
課題 C 関数		
第1学年	第2学年	第3学年
(1) 比例、反比例について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (4) 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。	(1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (4) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。	(1) 関数 $y = ax^2$ について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (4) 関数 $y = ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

<教科書との関連> ※学校図書

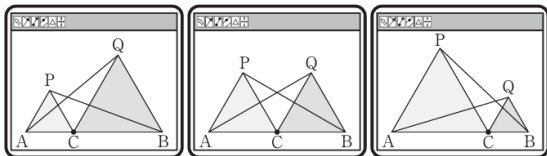
学年	単元		他教科との関連
第1学年	4章 比例と反比例	4 比例と反比例の利用 ・比例と反比例の利用	理科
第2学年	3章 1次関数	3 1次関数の利用 ・1次関数の利用	理科
第3学年	4章 関数 $y=ax^2$	4 関数 $y=ax^2$ ・関数 $y=ax^2$ の利用	理科

■【設問9(2)】25.5% (広島県25.7%)

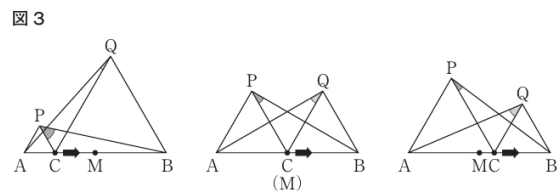
9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。
桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの midpoint に点Cをとりました。



二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。



(2) 健太さんは、線分ABの midpoint に点Cをとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。
そこで、次の図3のように、線分ABの midpoint をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようによめました。



調べたこと

- 点Cが点Aから点Bに近づくにつれて、 $\angle AQC$ は大きくなり、 $\angle BPC$ は小さくなる。
- 点Cが線分ABの midpoint のとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° である。

健太さんは、前ページの調べたことから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について何かいえることがないか考えています。
このとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について、次のことがいえます。

- ◎ 点Cが点Aと midpoint M の間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ① 。
- ◎ 点Cが midpoint M と点Bの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ② 。

上の ① 、 ② のそれぞれに当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つずつ選びなさい。

- ア 60° より大きい
- イ 60° より小さい
- ウ 60° になる
- エ 60° より大きいことも小さいこともある

<問題の概要>

点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ。

<出題の趣旨>

事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。

<学習指導要領における内容>

〔第2学年〕B 図形

(2) 図形の合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。

<解答類型>

類型	正誤	解答の内容		反応率
		①	②	
1	◎正答	ウ と解答しているもの。	ウ と解答しているもの。	25.5
2	誤答	ウ と解答しているもの。	ア と解答しているもの。	3.0
3	誤答		イ と解答しているもの。	8.5
4	誤答		エ と解答しているもの。	7.9
5	誤答		無解答	0.0
6	誤答		ア と解答しているもの。	ウ と解答しているもの。
7	誤答	イ と解答しているもの。	5.5	
8	誤答	エ と解答しているもの。	0.6	
9	誤答	無解答	0.0	
10	誤答	ア と解答しているもの。	ア と解答しているもの。	3.0
11	誤答		イ と解答しているもの。	8.5
12	誤答		エ と解答しているもの。	3.6
13	誤答	イ と解答しているもの。	ア と解答しているもの。	10.3
14	誤答		イ と解答しているもの。	1.2
15	誤答		エ と解答しているもの。	4.2
16	誤答	エ と解答しているもの。	ア と解答しているもの。	1.2
17	誤答		イ と解答しているもの。	4.2
18	誤答		エ と解答しているもの。	1.8
19	誤答	上記以外の解答		0.6
20	無回答			6.7

- ◆ 正答した【解答類型1】を選択した生徒は、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和についていえることとして、点Cを線分AB上のどこにとっても $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 60° になることを捉えることができていますが、全体として正答率は25.5%であることから、事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことには課題があるといえます。
- ◆ 【解答類型3、7、11、13、14、15、17】を選択した生徒の反応率の合計は42.4%で、多くの生徒が、①又は②に「イ 60° より小さい」を選択しており、点Cが点Aと中点Mの間にあるとき、又は点Cが中点Mと点Bの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 60° より小さくなると捉えています。
- ◆ 図形の移動について考察する際に、図形がきまりにしたがって移動している様子を観察し、移動前と移動後の二つの図形の関係を捉え、図形の移動の性質を見いだす活動を取り入れます。例えば、紙で作った図形を動かしたり、コンピュータで図形が動く様子を観察したりすることなどを通して、図形の移動について理解できるよう学習指導を工夫します。
- ◆ 図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見だし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現できるようにするとともに、正三角形を二等辺三角形や正方形など他の図形に変えた場合はどうなるかを考えるなど、統一的・発展的に考察できるよう学習指導を工夫します。

<内容の系統性>

B 図形

【小学校 算数】

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<p>(1) 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ものの形を認め、形の特徴を知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。</p>	<p>(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 三角形、四角形について知ること。</p> <p>(イ) 正方形、長方形、直角三角形について知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えたり、身の回りのものを図形として捉えること。</p>	<p>(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 基本的な図形と関連して角について知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方考えたり、身の回りのものを図形として捉えること。</p>	<p>(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 直線の平行や垂直の関係について理解すること。</p> <p>(イ) 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を見いだすことと、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。</p>	<p>(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合同について理解すること。</p> <p>(イ) 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を見いだしたり、図形の性質を見いだし、その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。</p>	<p>(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 縮図や拡大図について理解すること。</p> <p>(イ) 対称な図形について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を見いだしたり、図形の性質を見いだしたりすることと、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。</p>

【中学校 数学】

第1学年	第2学年	第3学年
<p>(1) 平面図形について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 平行移動、対称移動及び回転移動について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(イ) 図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現すること。</p>	<p>(1) 基本的な平面図形の性質について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 平行線や角の性質を理解すること。</p> <p>(イ) 多角形の角についての性質を見いだせることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明すること。</p> <p>(2) 図形の合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(イ) 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。</p>	<p>(1) 図形の相似について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。</p>

課題

<教科書との関連> ※学校図書

学年	単元		他教科との関連
第1学年	5章 平面図形	2 図形の移動 ・図形の移動	美術
第2学年	4章 図形の性質の調べ方	1 いろいろな角と多角形 ・いろいろな角 ・三角形の角 ・多角形の角 2 図形の合同 ・図形の性質の確かめ方	
	5章 三角形・四角形	1 三角形 ・二等辺三角形 ・直角三角形の合同 2 四角形 ・平行四辺形の性質 ・平行四辺形になるための条件	
第3学年	5章 相似な図形	1 相似な図形 ・相似な図形の性質 ・三角形の相似条件	
		3 相似と計量 ・相似な図形の面積比 ・相似な立体の面積比と体積比	社会